



平安だより

世田谷平安教会付属 平安幼稚園

2019年 11月号

「小さなパウロ」

牧師・園長 長村亮介

聖書の中にはいろいろな人が出てきますが、その代表的な人物として使徒ペトロに並ぶ使徒の双璧、使徒パウロを挙げてみたいと思います。ペトロは主イエスの十二弟子の筆頭で、主イエスの十字架と復活の目撃者となり、主イエスと共にキリスト教の核になった存在ですが、パウロはと言うと、はじめは「サウロ」という名で、キリスト教の迫害者でしたが、クリスチャンを迫害しに行くダマスコへの途上で、復活の主イエスの輝きに打ち倒され主イエスに出会い、迫害者から一転して熱心なクリスチャンになったという人です。そしてキリスト教の基礎を作ったのは、このパウロだと言っても過言ではありません。新約の「手紙」と呼ばれているものほとんどは、このパウロの書いたものです。

そのパウロが、どのような人であったかと言うと、「コリントの信徒への手紙二一〇章一〇節」には、

「わたしのことを、『手紙は重々しく力強いが、実際に会ってみると弱々しい人で、話もつまらない』と言う者たちがいるからです。」

とあったり、また「コリントの信徒への手紙一 二章三節」には、

「そちらに行つたとき、わたしは衰弱していて、恐れに取りつかれ、ひどく不安でした。」

というのがあります。この時のパウロは、そうとうヨレヨレだったことでしょう。どちらにしてもあまりメンタルの強いタイプとは言いがたいと思います。しかし私はそういうパウロが好きなのです。パウロは、自分になど確信を抱かず、ただ神さまを信じていたので、あらゆることを偏見なく吟味して必要があれば前言を翻すことも

厭いませんでした。場合によっては正反対な指示を出すことさえもあつたと聖書には記されています。

先ほどの「コリントの信徒への手紙一 九章二〇節」以下には「ユダヤ人に対しては、ユダヤ人のようになりました。ユダヤ人を得るためです。律法に支配されている人に対しては、わたし自身はそうではないのですが、律法に支配されている人のようになりました。律法に支配されている人を得るためです。…：福音のためなら、わたしはどんなことでもします。それは、わたしが福音に共にあずかる者となるためです。」とあります。イエスさまを宣べ伝えるためには、変幻自在のパウロでした。

またパウロは、どうも目に大きな病を持っていたようで、それが癒やされるように神さまに何度もお祈りをしたようです。その時の神さまのお返事は、「わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ。」というものでした。その時パウロは、「キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。それゆえ、わたしは弱さ、侮辱、窮乏、迫害、そして行き詰まりの状態にあつても、キリストのために満足しています。わたしは弱いときにこそ強いからです。」（コリントの信徒への手紙二 十二章七〜十二節）と言っています。

聞くところでは、日本人の七割以上はメンタルが弱いそうです。私も多分その中に入ります。そのような中、人生の様々な困難を乗り越えるのは、とても大変なことには違いありません。しかし、メンタルなんて弱くて良いではありませんか。そこに神さまの力が働くのであるなら…：。パウロという名の意味は「小さい者」です。Ω

平安だより

世田谷平安教会付属 平安幼稚園
2019年 11月号